



世界最先端の燃料電池自動車(FCV)を国内空港に初導入

関西国際空港では、スマート愛ランド構想のもと、世界最高水準の環境性と安全性を備えた人と地球にやさしい「環境先進空港」をめざし、空港内の事業用車両については燃料電池自動車(FCV)や電気自動車(EV)などのエコカー導入を奨励しています。

このたび、トヨタ自動車株式会社が2014年12月に国内販売を開始した、世界初市販車のFCV(MIRAI:ミライ)を、空港維持関連作業となるランウェイチェックや航空灯火のライトチェックの車両などで利用することを目的に導入しましたのでお知らせします。弊社で保有する水素関連自動車としては、実証走行試験中の水素ロータリーエンジン自動車をあわせると2台目となります。導入するFCVは、2015年度中に関西国際空港の2期空港島に建設される本格的な水素ステーションにて水素充填を行うことができ、自律的な商用ベースでのFCV走行環境が実現するのは、国内の空港としては初めてとなります。

引き続き、水素グリッドプロジェクトとして、関西国際空港内の旅客輸送用バスや貨物ハンドリングのための産業車両についても、水素エネルギーで走行する車両等に転換し、水素エネルギーの導入に向けた取り組みを進めて参ります。

【導入する燃料電池自動車(FCV)の概要】

○名称	MIRAI
○販売開始	2014年12月15日(月)
○納車	2015年4月予定
○ボディーカラー	ピュアブルーメタリック
○寸法	4890×1815×1535mm (全長×全幅×全高)
○公称圧力	70MPa
○タンク容量	122.4ℓ
○一充填走行距離	650km



MIRAI

※燃料電池自動車(FCV)

水素と空気中の酸素を化学反応させて電気をつくる燃料電池を動力源とするFCVは、利用段階においてCO₂を排出することがありません。燃料電池はCO₂排出量の低減やエネルギーの多様化への対応技術として、フォークリフトなどの産業車両の動力源としても期待されております。

※エコカー

対象車両： 電気自動車、ハイブリッドカー、プラグインハイブリッドカー、燃料電池自動車、天然ガス車、水素自動車、超低燃費車

超低燃費車：排出ガス基準と燃費基準を満たした車両

